

南丹教育局 NEWS

京都丹波の教育

第 114 号 平成 26 年 12 月 22 日 発行

12 月 9 日（火）、南丹市日吉町生涯学習センターで平成 26 年度南丹地区学校安全研究協議会を開催し、管内の幼稚園、小・中・府立学校の教職員をはじめ PTA の方々、学校薬剤師の先生など合わせて約 80 名の参加がありました。

当日は、事故・事件が相次ぐ危険ドラッグについての講演や、学校における事故災害の未然防止等に取り組む小学校からの実践発表をしていただきました。



平成 26 年度
南丹地区学校安全研究協議会を開催しました

写真①
写真②
写真③

講 演
実践発表
（京都府警察本部刑事部組織犯罪対策第三課
警部補 辻健）



◆課題提起◆

管内における事故や国内で過去に発生した部活動事故などをはじめとして、学校安全教育全般について説明しました。

管内の子どもの事故罹災率は昨年度より若干下がったものの、大きな改善が見られたわけではなく、ケガの防止や自転車の正しい乗り方等について、学校等での更なる指導をお願いしました。

◆実践発表◆

インターナショナルセーフスクール認証に向けた安心・安全な学校づくり

「インターナショナルセーフスクール」とは、根拠に基づいた持続可能な安全推進の取組が実践されている学校が認定される国際認証です。

ケガをした子ども自らがその原因に気付き防止できるよう「安全点検カード」を作成したり、教科体育や床の雑巾がけを通して体幹を強化したりする等、子どもたちの危機回避能力や体力向上につながり、他校での取組の参考となる活動を御紹介いただきました。

◆講演◆

危険ドラッグと薬物乱用防止について

化学物質の作用の強さが大麻の数十倍といわれる危険ドラッグや、薬物乱用をさせないための効果的な指導等について、覚せい剤の標本等を用いてお話いただきました。

住んでいる場所が田舎・都会であることはまったく関係なく、中学生の約 500 人に 1 人は危険ドラッグと関わりを持っているという言葉には、参加者も驚いたようでした。

薬物乱用防止のために、できるだけ早い段階で薬物の危険性を理解させ、子どもたち自身で「どうしたら薬物乱用が防げるか」を考え、行動させることが大切だと述べられました。

◆参加者の感想◆

〈実践発表〉

- ・子どもたちの安心・安全を守るために様々な取組をされ、その中で子どもたちの意識が変化したりケガが減少したりするなど、取組の成果が出てきている点がすばらしいと感じました。
- ・生きる力をつけるにも学力をつけるにも安心安全、心身の健康が基礎だと思っておりますので、曾我部小学校の ISS 認証に向けての取組はとても興味深く聞かせていただきました。

〈講演〉

- ・薬物の低年齢化が進み、社会問題になっている。生徒に危険性を伝えることも大切であるが、未然に防ぐための「心」を育てる必要があると感じた。また、生徒たちにも「薬物乱用」について考える機会を設けようと思う。
- ・薬物乱用の学習は小学校高学年でも行っていますが、繰り返し伝えていくことの大切さを感じました。身近なところに誘いの手があることや、新しい情報を知ることが必要だと思いました。